

学び続ける学校

別海町立別海中央中学校 校長室便り

発行 校長 青坂信司

第5号 平成27年6月18日(木)

※今日の言葉「この子のつらさを、いとおしいまでの淋しさを理解するのでなければ、教育はできない」

変化に敏感であれ

◆子ども理解が教育の出発点だとよく言われる。そのために、教師という職業は、子どもの実態や課題を的確に捉え、そこをスタート地点として子どもの指導に当たるということが求められる。子どもの実態や課題を的確に捉えるために客観的なデータや様々な観点からの把握が必要である。医者が適切な治療をするために様々な検査データをもとにして治療方針を立てるのと似ている。

◆しかし、それだけが全てではない。「刑事の勘」とか「医者勘」と言われるように、教師にも「勘」が必要である。教師の勘とは、他の職業と同じように、やはり身に付けるにはそれなりの年月が必要である。それも意図的な努力の積み重ねがあって、ようやく「勘」と呼ばれるようなものになる。ただたんなる当てずっぽうの「山勘」とは違うものなのである。

◆「勘が鋭い」というのは、あらゆる物事に対して敏感であるということだ。「敏感」を鍛えるためにはどうしたらよいか。一つの方法としては、一つの視点を定めて、長期間継続して見続けるということである。例えば、生徒の靴箱を見続けてみる。ある子はきちんと外靴を靴箱に入れている。ある子は、ばらばらに入れている。また、同じ子であっても、その日その時で、違う入れ方をしていることもある。同じようであっても何らかの変化がある。いい変化もあれば、悪い変化もある。その変化を見逃さない。



◆子どもの靴箱を見続け、そして考えてみる。以前との靴の入れ方の違い、子どもによる違いは「なぜ、そうなのか？」と考えてみる。そして、違う要因と結び付けて考えてみる。すると「もしかしたら、・・・」というようなことに気づくことがある。「最近、靴の入れ方が雑になってきたのは、もしかしたら授業がわからないと言っていたことと関係しているのではないか」もちろん、それが当たっているかどうかはわからない。そのように推測してみることで、子どもの全体像がほんのちょっぴりだが見える。その意味で、靴箱に入っている靴が、子どもの表情を表すのである。

◆視点を定めて、長期間継続して見続けるというのは、靴箱だけのことではない。視点は、それぞれの教師の考え方でよい。毎日の机や椅子の様子、筆箱等の文房具、そして何より子どもの表情、服装等、ありとあらゆることから、とりあえず視点を決めて、長期間、継続して注意深く見てみると「何か」が見えてくる。その「何か」をもとに教育活動を展開することも、その「何か」を授業という場面で取り上げ、広げ、深めていくこともあるだろう。子どもの心に響く教育活動は、子どもの、教室の、学校の、そしてあらゆる物事の変化に敏感な教師の存在なくしてはありえないのである。